

第2回（平成24年7月期）番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成24年7月25日（水）17:00～18:00

2. 開催場所 会議室

3. 委員の出席状況

委員総数 8名

出席委員 6名 萩尾利雄・木辻清子・山本幸男・為岡務・平川愛恵・宮川清

欠席委員 2名 正岡健二・西修

放送事業者側出席者 金 千秋・田口靖幸・田中勝・平野由美子

4. 議題

番組審議

第2回審議番組：「まちはイキイキきらめきタイム」（55分）

7月4日（水） 12:00～12:55 放送

担当：高見かおり、片岡法子、田中勝、田口靖幸

ゲスト：濱田明展さん（電話中継）

YUKAさん、YUCOさん（ゴスペルユニット Kamicoco）

この番組は、月曜日から金曜日 12:00～12:55 生放送の番組で（火・金曜日は 12:00～13:25）、毎日日替わりで多彩なパーソナリティが担当している。

毎月第1水曜日は、濱田治療院の濱田さんと電話中継をし、長田神社前商店街で毎月1日に開催される「おついたちまつり」のレポートをしていただいている。（コーナー名「長田神社前発！グージーの聞き耳頭巾」、協力は長田神社前地域活性化協議会）

また、水曜日はゲスト出演者が多いこともあり、Twitter や Ustream 配信等を使った情報発信に力を入れている。

5. 議事の概要

番組の基本コンセプトの説明後、審議を行う。

6. 審議内容

6-1. 欠席者の審議紹介

【正岡健二委員】

- ・ 全体を通して大変聴き取りやすい。リラックスタイムの放送時間帯にはピッタリの番組進行である。
- ・ 喋りのテンポが軽快でさわやかである。ただゲストを招いての放送なので、出演者4名、電話レポート1名、ゲスト2名（計7名）は多いのではないかと。出演者は2名が最適だと思う。
- ・ タイムリーな話題とレポートがミックスされていて聴きやすかった。番組全体の構成もメリハリが効いて飽きさせない内容であった。

【西修委員長】

- ・ オープニングはわいわいの番組らしくなくおしゃれで、ジングルも可愛らしくてよかった。
- ・ 高見さんの声は聴きやすく、田口さんの低い声も悪くない。パーソナリティはこの2人でよいのではないかと。特にゲスト2人がずっと参加しているので、たくさん登場すると鬱陶しい。
- ・ マイクの音量が一定していなかった。
- ・ 電話レポートはコミュニティ FM らしさが出ていてよい。
- ・ インタビューのコーナーはノンシナリオか？ライブ感があるのはいいが16分ずっと聴いているのは辛かった。曲をはさむなど工夫が必要と思われる。
- ・ 番組の始まりは好感があったが、エンディングは間延びした感じがした。

6-2. 出席者の審議

【平川愛恵委員】

- ・ 雰囲気よかった。普段から何かをしながらラジオをよく聴いているが、審議のためにはなく普通にリスナーとして楽しめる明るい番組であった。
- ・ パーソナリティの男性2人の声が小さかった。また、4人ともしゃべったら誰が誰だかわからなくなる。女性2人をメインにして男性たちはサポートに徹した方がよいのではないかと。
- ・ 濱田先生の声が暗かった。
- ・ コミュニティ放送らしい番組である。「まちイキ」の目的が寄り合い所的に賑やかにしているのはよいと思う。

【萩尾利雄委員】

- ・ やはり出演者の数が多い。
- ・ 進行役の人が語尾に「ね」と入れるのが多くとても気になった。
- ・ 濱田先生の声が全体的にトーンダウンしていた。話の内容も初めて聴くものにしたらわかりにくかった。「おついたちまつり」とはどういうまつりなのか伝わってこなかった。
- ・ 男性レギュラーの音が小さく煩わしさを感じた。
- ・ せっかくゲストに来てもらっているのだから、ゲストが喋る時間を多くするべきである。
- ・ 情報の提供の仕方をもっときちんとしてほしい。伝えなければならないことは、複数でやり取りするのではなく一人がしっかりと読むべきである。また、ゲストとの打ち合わせも大切である。「情報を伝える」という意味をわかっていない人にはレクチャーしなければならない。
- ・ 自分が担当した番組をもう1回聴いて自分なりの反省をしてほしい。それを局の方針として示してもよいと思う。

【為岡務委員】

- ・ 音楽は4曲とも途中で切れたので最後まで聴きたかった。
- ・ 「ホットニュース」と言っていたが古いデータではなかったか？
- ・ しかし、全体的には聴きやすかった。

【木辻清子委員】

- ・ 番組の始めから聴きやすかった。内容まで深くは聴いていないが、何かをしながら聴くには聴きやすい。良い印象も悪い印象もなかった。
- ・ 電話番号を話す速度が速かった。聴きながら書いてみたが速かった。

【山本幸男委員】

- ・ 生放送を普段も仕事をしながら聴いている。
- ・ 2曲目が途切れるように終わったのが気になった。
- ・ ゴスペルの曲、ゲストの曲は最後まで聴きたかった。

【宮川清委員】

- ・ 萩尾委員の感想に近い。「おついたちまつり」の説明がなかった。その単語を聴いて何だろう？と思った人への誘導がない。長田神社前商店街のことだとはわかるが、それがどこにあって、どこからどこまでの規模でというまつりそのものの紹介もすべきである。
- ・ 話の内容に想像をかき立てられるものが乏しい。リスナーは聴いていて想像して、番組に参加していると実感できると面白いと感じるのではないかと。
- ・ インタビューの仕方も工夫してほしい。濱田先生の話から言葉をつなげて広げて締めるといった流れにしてみてもどうか。
- ・ ゲストを始めから入れるのは間延びする。

【放送事業者側出席者：田口靖幸】

- ・ 声が通りにくいのは悩んでいる。
- ・ 始めは、出演者というよりもサポートとして番組に入っていた。ボランティアでパーソナリティをしてくれている人たちに「放送に来てよかった」と少しでも感じてもらえるように、オブザーバー的に関わっていた。パーソナリティの足りないところを補足するのが役目であり、フォローの質問を入れる必要性を感じることは多々あるが、タイミングよく声を出すのは難しいところである。
- ・ 特に水曜日のこの番組はコミュニティ放送局ならではの超参加型番組と認識している。苦勞してゲストを呼んでも関係性が途切れることが多かったので、緩いながらもずっとつながりを維持していくため、そしていずれは会員を獲得するために、工夫を試みる場所ととらえている。SNS（ソーシャルネットワークサービス）、Facebook 等を活用し、オンラインで、常に、今 FM わいわいが何をしているかが手に取るようにわかってもらえるように放送にも取り入れるようにしているつもりである。
- ・ しかし、そちらに比重がかかり、インタビューのノウハウ等ラジオ番組としての基本的なことが二の次になっていたかも知れない。
- ・ 現在すでに4人のチームになっているので、皆様のご意見を受け考えていきたい。

【放送事業者側出席者：金千秋】

- ・ FM わいわいには、よい意味で偏った人はよくゲストに来てくれるが、地域の顔の見える人たちにもどんどんゲストに来てもらいたいし、普通にちょっと興味がある方々にも関わってほしいと考えている。
- ・ 番組の中のコーナーは、何をするためのコーナーなのかを伝える努力は怠っていたかも知れない。
- ・ 女性と男性の声があると聴きやすい。4人でしているのなら週ごとにメインパーソナリティを交替するという方法も考えられるか。
- ・ ゲストへのインタビューはこの番組に限らずもうちょっとという反省はある。インタビューは短ければ短いほど難しいものである。
- ・ 自分の番組をもう一度聴くのは個々人のレベル向上によい。この番組は夜に再放送をしているので担当者にはできれば聴いてもらいたい。

7. 審議機関の答申または改善意見に対して採った措置及びその年月日

- ・ 担当者に連絡（平成24年8月1日）

8. 審議機関の答申または意見を公表した場合における公表内容、方法、年月日

- ・ 公表内容…議事の内容
- ・ 公表方法…自社放送（平成24年8月11日12:00～13:55の番組内で放送予定）
事務所に議事録の備置き（平成24年8月7日）
ホームページに掲載 <http://www.tcc117.org/fmyy/index.php?cl=13-98>

9. その他参考事項

特になし

以上